

未来の若い女性リーダーたち ヴィンダヤー・ウェーラトゥンガ（スリランカ）

長い年月を経て、女性の役割は進化してきました。ついこの前まで、女性の主な役割は子育てと家事でしたが、世界のグローバル化、ライフスタイルの変化に伴い、女性は高学歴を手に入れ、雇用市場に参入し、家庭の外の広い世界へ進出しました。スリランカも例外ではありません。

今日、スリランカでは、人口の 51% を女性が占めています。女性の識字率は 91% で、大学進学を選ぶのは男性より女性のほうが多いのですが、労働市場を精査すると、女性就労者の割合はわずか 34% に過ぎません。

民間であれ、公的機関であれ、キャリアの頂点を極める女性はほんの一握りで、官僚の最高位である事務次官 59 名中、女性はわずか 9 名です。しかし、公的機関全体では女性の数が男性を上回っています。民間においては女性の社長や会長はごくわずかで、世界初の女性首相を輩出し、女性大統領を過去に擁したスリランカとしては受け入れがたい現状です。

この理由はいくつか考えられます。女性は学業で優秀であっても、就職してから、結婚や家庭を持つという社会的プレッシャーに直面します。若いカップルにとっては、幼い子どもの世話をし、子どもが必要とするときにそばにすることが、ますます困難になってきています。その結果、高学歴の働く女性がキャリアを諦めて母親業に専念する道を選択するという傾向が強まっています。スリランカでは、時短就労や保育施設の完備の実現には程遠いのが現状です。



スリランカ政府の大臣たち

もう 1 つの理由は、おそらく歴史的にリーダーシップとは男らしさを指すものであり、現在に至るまで男性のほうが女性よりもリーダーとして優れていると考えられてきたことが挙げられます。主に、労働時間や要求される技能（たとえば大勢の男性職員をまとめる管理職など）、あるいは勤務地を理由に「男の仕事」と見なされている職業もあります。したがって、企業によっては女性よりも男性を雇用するほうが望ましいと考えるところもありま

す。

しかしながら、最近の傾向では、より多くの女性がキャリアの階段を上り、事業経営に携わるようになってきています。女性は、ワーク・ライフ・バランスを維持しつつ、キャリアウーマンとして成功するための多様な着地点を見極めようとしています。女性が妻・母親業と事業経営を両立させるための柔軟性を手に入れたのです。

企業においてリーダーシップを発揮できる女性になるには、若いうちにその基礎を身につける必要があります。伝統的に、女子は、仕事と家庭の両立がしやすい教師を目指すように指導されてきました。しかし、都市部で育った女子は、企業の世界をより間近に見ることでビジネスの世界を目指すようになります。リーダーシップの養成は、男女ともに均等に展開していかなければなりません。若い女性にも、良き指導や助言を与え、将来リーダーとして直面する問題や、複雑なビジネス環境に立ち向かえるようなスキルを身につけさせなければなりません。これは大変重要なことです。優れたガバナンスや企業の社会的責任と職業倫理の変革によって女性の活躍が進めば、スリランカの繁栄につながることになるでしょう。